

〇1月23日(日)開催 第3168回例会

兵庫県山岳連盟同調 シリーズ・摩耶山

「摩耶山系の隠れた尾根を訪ねて」 報告

布引支部 吉野 宏(岳連普及委員会委員長)

コロナウイルス変異株「オミクロン」の感染急拡大により、兵庫県にも「まん延防止等重点措置」が発令されるのは時間の問題！・・・そんな最中ではあったが、岳連加盟団体の会員さんや興味を持たれた一般の登山者にも人気度が定着して来た「隠れた尾根シリーズ」を企画していたので、感染予防の対策を施したうえで行うことにした。

「摩耶山地の岩屋尾根？」と、やはり興味を示された方が多く、参加申込みの段階では37名の方が居られた。しかし、当日は「まん延防止措置」に加え、JRの人身事故による運行遅延なども有り、結果29名参加での実施となった。

集合は阪急王子公園駅8時30分。コースは阪急王子公園駅～山麓リボンの道～雷声寺～学校林道・東山東尾根分岐～旧摩耶道～岩屋尾根～縦走路～稲妻坂三角点～ハーブ園～布引みはらし台(解散予定13時30分)である。



手書きの地図でコース説明

計画の段階ではもう一つの隠れた？尾根・東山

東尾根もコースに入れていたのだが、下見の段階で入山者がほとんど無いかクヌギの落葉で滑りやすく、しかも尾根の両側はかなりの傾斜で、ふらつきによる滑落を考えるとケガではすまぬと判断し、コースを変更して行うことにした。

スタートし山麓リボンの道を西へ向かう。東山東尾根を登らぬとなると、岩屋尾根への取付点は青谷道の行者堂跡地から元摩耶道を少し戻った所なので、時間的にもコースとしても、あまり面白くないため、あえて雷声寺経由の入山とした。神戸の背山を詳しく説明するにはこの道から眺めるのが効果的であり、東山東尾根もよく見える道である。



山麓リボンの道から東山東尾根方面を眺める

熊内台から雷声寺へ入り、ハイキング道として使われている旧摩耶道へとのおんびり歩いた。学校林道入口・東山東尾根そして旧摩耶道の3ルートの分岐で2回目の小休止。

岩屋尾根は青谷川の源流の西側の尾根で、縦走路から張り出した尾根である。岩屋と言う地名は灘区の浜側に岩屋北町、岩屋中町、岩屋南町と有り、JR線より南側なのになぜ摩耶山地となるこの尾根に岩屋の名が付いたのだろうか？と思い調べてみた・・・

結果、昔は領土の飛地があったようで、摩耶山地のこのあたりは岩屋村の土地であった故にその名が残っているようである。

取付点は行者堂跡から旧摩耶道に入り、150メートル程進んだ所である。いきなりの急登に加え、落葉で滑りやすいので注意して歩く。

冬枯れのジグザグ道は大変明るく気持ちが良い。木々の間から右手に見える尾根は行者尾根。アルペンチックな痩せ尾根で、若い時には夏山のトレーニングによく使った尾根であり、尾根の名前すら分からなかった為、勝手に付けた名がそのまま今にそう呼ばれている。又、近年は摩耶アルプス?とカッコの良い名も付いているようだ。



ハーブ園内で甘い香りを漂わせていたロウバイの花

ハーブ園経由でゴールの布引みはらし台へ予定の時間通り 13 時 30 分到着した。

天 候 晴れのち曇りのち小雨
参加者 29 名 (うちヒヨコ会員 27 名)



アクティブレンジャー氏のお話し

コースの中間点付近に少し広くなった場所があり、天候は午後から雨が来る予報でもあったので少し早めの昼食をとることにした。昼食後は、今回も同行下さった環境省神戸保護官事務所・中村アクティブレンジャー氏にご講義をして頂いた。お題は「山で熊に出逢ったら」と、これ又大変面白いお話しであった。この地点から縦走路（稲妻坂～天狗道～摩耶山）まではほんの 15 分余りの登りで合流する。学校林道分岐からそのまま稲妻坂を下り、425M 地点にある三角点（山郡）を確認した後